

デザインの現場

DESIGNERS' WORKSHOP

vol.23 no.145

2006

2

Feb.

特集

デザインを読む! ブックガイド 300



本でたどるデザイン史
早わかり 理論本と実践本

デザイナーを読み解く

ジャスパー・モリソン、エンツォ・マーリほか

異なる視点でデザインを考える54冊
政治からジェンダーまで

まだまだ読める絶版本

特別記事 2005年秋のデザインイベントレポート
彫刻家 五十嵐威暢の挑戦

追悼 森 正洋

付録 本誌紹介デザイナー173件の連絡先リスト



『これだけは知っておきたい —金型設計・加工技術』

武藤一夫、高松英次

1995 日刊工業新聞社 B5判 3570円

推薦=酒井俊彦（プロダクトデザイナー）

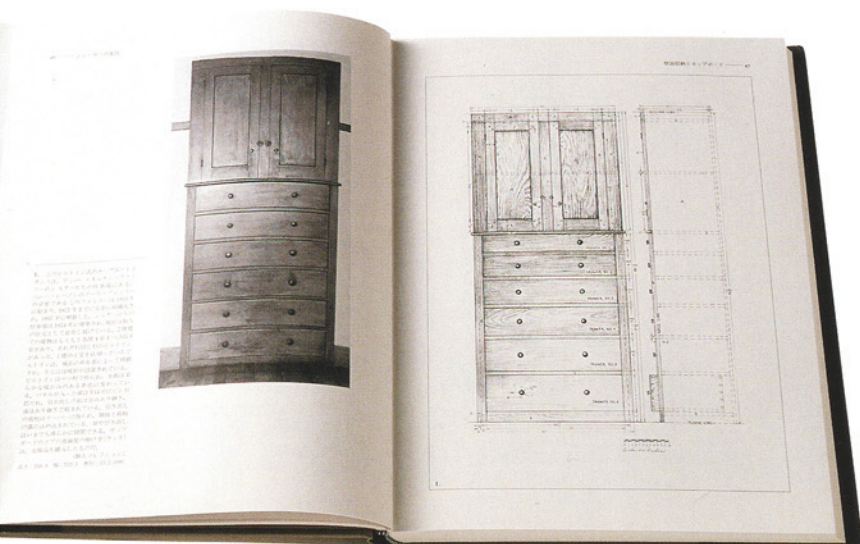
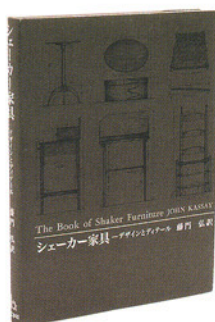
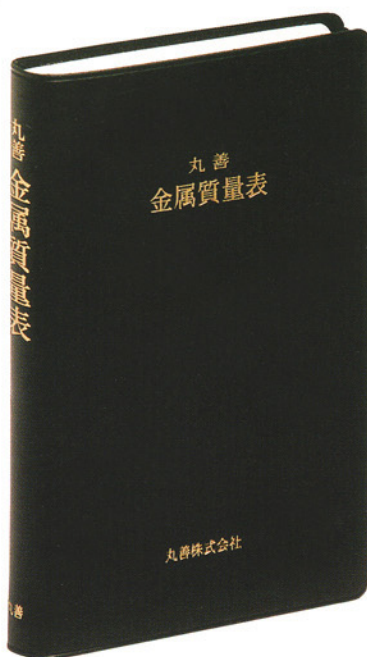
第1章のタイトルは「金型とは」である。なんと金型そのものの説明から入り、その役割や分類、自動車为例にとつての具体的な記述が続き、非常に親切的な構成となっている。第2章以降は、プレス型、射出成型、鋳造型、鍛造型、粉末冶金型、ガラス型、ゴム型、セラミックス型……等々、第1章同様、基本的な解説が行われ、初心者にはありがたい。すべてを理解する必要はないが、加工技術の基本を知ること、デザインにもいっそうの興行きが出てくるだろう。「樹脂と成型については、分かりやすい書籍が少ないのですが、この本はエンジニアじゃなくても、ある程度、理解できるように説明されているんです。図解や写真も多く、言葉遣いも平易。非常に重宝しています」（酒井）

『丸善 金属質量表』

1999 丸善 10×15cm 1785円

推薦=小泉 誠（家具デザイナー）

最新の技術情報に基づき、金属材料に関する単位寸法あたりの質量や、断面性能などを記載。金属材料のユーザーやメーカー、ディーラーは必携の一冊。では、デザイナーにとっての本書の意義は？「もともとは金属の重さを調べるためのものですが、うちの事務所では部材表として活躍しています。というのは、金属部材は、建築、インテリア、家具のデザインには欠かせませんから。その寸法が網羅されているんですよ」（小泉）



『シェーカー家具 —デザインとディテール』

JOHN KASSAY

1996 理工学社 A4判 9975円

推薦=小泉 誠

19世紀アメリカにおける宗教的な共同体として、有名なシェーカー教徒だ。彼らが製作した家具は、装飾性を排した、極めてシンプルな造形によって注目を集めた。機能性から導かれ、クラフトマンシップに貫かれたかたちは、家具の原型のようにも見える。よって、家具の構造や、木材の接合方法、イスやテーブル、チェストのプロポーションなど、学ぶべきところは多い。何より、不思議な温かみがある。「学生時代に建築家の中村好文さんから頂いたもので、今でも折に触れてページを開く本ですね」（小泉）。部材表や寸法も明記されているので、小箱やスツールなど、簡単なものを、実際に製作してみるのもいいだろう。